

冬越しに向けて

■生物による越冬場所の違い

気温も低下し、生物は越冬場所への移動をはじめている。干潟内の転石の下には様々な生物が潜り込んで冬を迎えようとしているが、場所によって生物が異なっている。



(Fig.1 蒲生干潟全景 2016年12月撮影)



(Fig.2 ケフサイソガニ)



(Fig.3 フナムシ)



(Fig.4 トビムシ)

Fig.1の①，外部から流入する水の影響が強い場所ではケフサイソガニが観察された (Fig.2)。①～③の全域ではフナムシ (Fig.3) やトビムシ (Fig.4) が観察され、特にフナムシは大変多くの個体が見られた。



(Fig.5 カワザンショウガイ)



(Fig.6 Fig.1 B 池があった場所)

③ではカワザンショウガイの集団が観察された (Fig.5)。

Fig.1は2016年に撮影したもので、Aの位置には震災以前から存在していた池があるが、現在は工事が進みこの池は失われている。その影響と思われるが、遊歩道をはさんで東側にはあった池 (Bの位置) も現在は失われている (Fig.6)。③では以前からカワザンショウガイが観察されていたが、池が失われるという環境の変化がカワザンショウガイにどのような影響を与えるか目を向けていきたい。

(佐藤 賢治)